

特243  
629

「リミット」第四十二輯

中等學生の思想に関する調査 (三)



\*0051060000\*

0051060-000

特243-629

中等學生の思想に関する調査

大阪府中等学校校外教護聯盟・〔編〕

大阪府中等学校校外教護聯盟

3

昭和9

AHM

特243  
629

### 序 言

本聯盟は直接に學生を取扱ふ基據を得るため、中等學生の思想に關する調査をなし、曩にその一端を取纏めて「道德判斷に關する方面」「思想内容についての方面」を發表したが、今回はその續編として「思想傾向に關する考察」を編んでこれを公にするにいたつた。勿論事思想に關することであつて、難中の難に屬する研究であり、従つて本調査もとより十全なるものではないが、識者の一考を煩はすの意として幾分たりとも裨益する所あらば、幸甚のいたりである。尙本編の調査は教護主事加藤政臣君を煩はしたものである。併せ記して其の勞を多とする次第である。



昭和九年一月十日

大阪府中等學校校外教護聯盟理事長  
島 田 牛 稚

目 次

一、緒 言	三
二、調査方法と問題	四
三、調査校生徒数	七
四、調査の整理(第一)生活に對する態度	八
1. 全般的傾向	八
2. 學校種別による比較	一三
3. 學年別による趨勢	一六
五、調査の整理(第二)職業に對する態度	一八
1. 希望職業	一八
A 中 學 校	一八
B 實 業 學 校	一三
C 女 學 校	一六
2. 選擇の理由	一三

## 中等學生の思想に關する調査 (三)

### — 思想傾向に關する考察 —

#### 一、緒 言

思想は一つの實行である。それは單なる思考でも知識でもあり得ない。多分に情意的傾向と實踐への契機が包含せられてゐるが故に、社會或は人生に對する考想は必ず自己の生活内容の上に表現せられるべきものである。されば極めて些細な言動にも其の内面に思想の原動のあることを憶ふ時教育にたづさはるものは先づその被教育者の思想傾向を知る必要がある。今や我國に於ては詭激思想があらゆる階級に浸潤し、甚だ複雑多岐を極め、神聖なるべき學生にも其の毒牙を受けてゐる状態である。然るが故に將來國家の中堅となるべき最も重要性を多分に有する中等學生の健全なる思想の育成を図ることは、目下の教育者の最大任務であり、斯る任務の遂行の爲には現在中等學生の抱ける思想傾向をはつきりと認識することが最も緊要事で

ある。この意味に於て本聯盟は府下中等學校生徒に對して思想調査を行ひ其の結果をさきに「教護パンフレット」第三十五輯、第三十六輯と引續き發表したのであるが、今回はその續編として(一)生活に對する態度、(二)職業の撰擇に就いての調査を整理し、この方面より見たる思想傾向の一端をうかゞはんとする次第である。

もとより本調査は中等學校生徒の思想傾向の一断面に過ぎないことは言ふまでもない。然しながら學生がその思想形態構造を如何なる方面にとつて居るか、其の傾向を観察するに恰適と思ふ種々の場合を考慮に入れて問題を作成したもので、各問題に對する答案より歸納されたる結果を既發表諸調査と比較對照、相互關聯せしめて究明せば、聊か中等學生の思想傾向の全豹を認識することが出來ると信ずるものである。

## 一、調査方法と問題

思想を調査することは、その性質上調査の困難と其の結果の不確實さをかもし易いものではあるが、近來諸方面に於いて此の種の調査は相當研究せられ、方法としても種々考案せられてゐる様である。本調査はこれ等の研究を參酌して調査を可成廣

範圍にわたり、而かも學校に託して調査する爲に問題を一齊にあたへて筆答せしめる方法をとつた。問題の作成にあつては整理の都合を考慮して問題の内容を一つの事象に對して可能なる意見を擧げ、自己の意見に最も近いものを指摘し、其れが價値判断をせしめ、或は將來の希望を問ふて、その思想傾向を窺はんとする極めて簡単な方法をとつたのである。

第一問「生活に對する態度に關する調査」の問題は、便宜上昭和五年五月二十四日より七月三十日に亘りて施行した徴兵検査受檢壯丁に對する文部省の調査の方案をその儘適用した。

人の生活に對する態度は千差萬別ではあるが、この調査にあつては、青年の考へさうな生活態度を六箇掲げて價値判断をせしめる様な仕組になつてゐる。

第二問「職業の撰擇に就いての調査」は彼等中等學校生徒は將來就くべき職業を如何なる處に求めるか、職業に對する理想、尙又如何なる根底によつて選びしか其の理由を問ひ、その傾向を見んとするものである。

次にこの兩調査問題の原文を擧ぐれば次の如くである。

第一問

人の暮し方には色々ありますが次の中であなたはどれを選びますか、一番よいと思ふもの一つだけに○をつけなさい。

- ( ) 一生懸命に働き儉約して金持になること
- ( ) まじめに勉強して名を擧げること
- ( ) 金や名譽を考へずに、自分の趣味に合つた暮し方をする事
- ( ) その日／＼をのんきにくよく／＼しないで暮すこと
- ( ) 世の中の正しくないことを押しつけて、ご／＼までも清く正しく暮すこと
- ( ) 自分一身のことを考へずに、公のためにすべてを捧げること

第二問

あなたの將來選ぶ職業は何ですかその職業の名を御書きなさい。何故その職業を選びますか。

職業( )  
理由( )

(第一表)

三、調査校、生徒數

整理の都合上府下一部の中等學校に於て施行したのであるが、全般の傾向を比較的確實に觀察し得る様出来るだけ廣範圍に、而かも同種の學校に偏せざる様考慮し種々の點に於てその趣を異にしてゐる各種の學校を網羅した。

調査校數は男子校五校、内府立中學校一、市立商業學校一、私立商業學校二、晝間、夜間部、府立職工學校一、女子校は三校、内府立高等女學校一、私立高等女學校一、私立實業學校一、男女併せて八校、調査人員、男子二八四七名、女子二八五七名、計五七〇四名である。今、其等調査生徒數を學校別、學年別に表示すれば左の通りである。

(第二表)

學校別	學校數	學年別					計
		I	II	III	IV	V	
中學校	一	200	276	255	334	137	1,332
實業學校	四	333	333	347	307	286	1,606
女學校	三	67	55	101	59	43	2,877
計	八	1,333	1,175	1,011	1,020	953	5,700

#### 四、調査の整理

##### (第一) 生活に對する態度

##### 1. 全般的傾向

先づ生活態度に關する調査であるが、之は六箇の設問の中、その何れを最高價値の生活態度として選擇せしか、その結果に就き先づ總括的に整理分類し、其の全般的傾向を觀察することにする。統計に現れたる選擇の割合を表示せば左の如くである。

(第三表)

第一	第二	第三	第四	第五	第六	計
一生懸命に働き節約して金持になること	まじめに勉強して名をあげること	金や名譽を考へずに自分の趣味に合った暮し方をすること	その日／＼のんきにくよくよしないで暮すこと	世の中の正しくないことを押しつけてどこまでも清く正しく暮すこと	自分一身のことを考へずに公のためにすべてを捧げること	
一四三	八〇	七五	三三	一九六	一九三	五七〇
二・五	一五・四	一三・二	四・一	三三・〇	三三・八	一〇〇・〇

之によつて見るに六箇の生活態度の中、第五の「世の中の正しくないことを押し」

けてどこまでも清く正しく暮す」と云ふ正義の生活を選択してゐるものが一番多く、五七〇四名中一九九〇名、即ち三五・〇％にあたり全數の約三分の一以上を占めてゐる。次いで第六の「自分一身のことを考へずに公のためにすべてを捧げる」犠牲的献身的公益生活を選び、その割合は二九・八％約三分の一、一六九三名である。結極以上第五、第六の兩生活態度を最も良きものとして選びしものが合せて三六八九名、六四・八％約三分の二に達してゐるわけである。

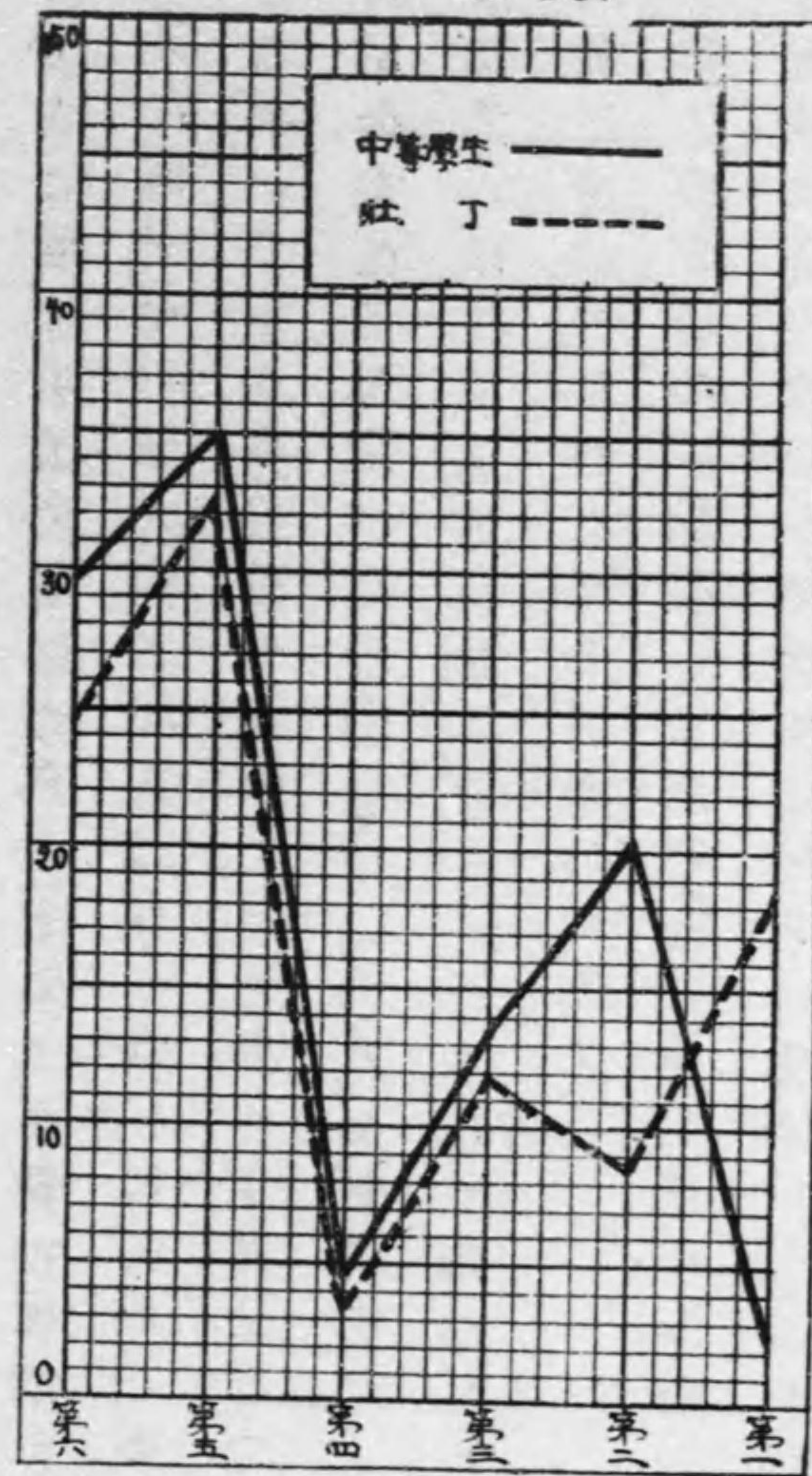
第二の「まじめに勉強して名をあげる」生活、一五・四％、第三の「金や名譽を考へず自分の趣味に合った暮し方をする」趣味の生活、一三・二％が之に次ぎ、第四の「その日その日をのんきにくよくよしないで暮す」生活態度がわづかに二三六名、四・一％に過ぎない。尙最も少數のものは第一の「一生懸命に働き節約して金持になる」生活態度で五七〇四名中わずかに一四五名、二・五％に過ぎないといふ結果を見たのである。

六箇の生活態度の中、そのいづれを最高價値として撰擇するか、同じ中等學校に學ぶとはいへ個々の境遇或は環境によつて、各々その見解を異にするのであるが上述のパーセンテージを以て先づ中等學生の之に對する傾向を物語つてゐるものと見て差つかへないかと思ふ。

今、この中等學生の生活態度に對する調査の結果に於ける壯丁の生活態度に對する調査の結果と比較對照し其の間の傾向の相異を究めてみたい。同じ青年とは言へるその大部分すでに實社會に出てゐるものであり、かゝる學力境遇生活環境を異にする兩者間の傾向の上に如何なる相異を來たすかは眞實に興味ある問題である。

先づ最初に便宜上壯丁八一七五名の選擇せし生活態度に關する統計を引用し、中等學校生徒との比較を圖示することにする。

(生活態度)



(第四表)

生活態度	壯丁	
	解答者數	百分比
第一	一、四七六	一八・六
第二	七三三	八・六
第三	九六九	一二・二
第四	二八三	三・五
第五	二、五九四	三・六
第六	一、九三五	二四・三
計	八一七五	一〇〇・〇〇

先づ六箇の生活態度に對する選擇の全般的順位を見るに、學生は第五、第六、第二、第三、第四、第一の順序に、壯丁は第五、第六、第一、第三、第二、第四の順序に評價されてゐる。

之によつて見るに第五、世の中の正しくないことを押しつけてどこまでも清く正しく暮す生活態度は兩者共にその最高率を示しパーセンテージも中等學生三五・〇%、壯丁三二・六%で中等學生の方がやゝ高く評價されてゐるものゝほゞ相接したる高率を示し何れも全數の三分の一を占めてゐる。之に次いで高率を示してゐるものはやはり兩者共に第六の生活態度自身一身のことを考へずに公のためにすべてを捧げる生活態度で、中等學生は二九・八%、壯丁は二四・二%、前者は全數の三分の一、後者は四分の一を占め、この點率の上に於ては中等學生の方がはるかに高率に評價してゐるが、兎に角も第五、第六の生活態度に對しては兩者何れも選擇數の大多數を占める約半數のものがこれを最高價値の生活態度として選んでゐることが解る。この時代のものは其の態度として一點の私心なく清く正しく非を非とし正をどこまでも正とする正義の觀念、公の爲には自分のすべてを捧げる献身的犠牲的精神に燃へ、從つて自己の生活の上にこれを理想とする青年特有の心理を良く物語つてゐる。

次に第三の「金や名譽を考へずに自分の趣味に合つた暮し方をする」第四の「その日

その日をのんきにくよくよしないて暮す生活態度に對しては殆ど一致した傾向をもつてゐる様であるが、唯最も注目すべき點は第一、第二の生活態度に就いての考へ方が著しく相異してゐることである。

第一の「一生懸命に働き儉約して金持になる」生活態度を中等學生は六箇の生活態度の中最低率二・五%五七〇四人中一四五人、わずかに四十分の一のものが選擇せしに過ぎないが、之に反して壯丁は第三位而かも一八・六%八一七五人中一四七八名約五分の一のものが選擇してゐる。之は金錢に對する觀念の相異をよく物語つてゐるとみるべきであらう。

次に第二の「まじめに勉強して名をあげる」生活態度に對しては全く第一の生活態度に對する場合と正反對に中等學生は之を壯丁よりはるかに高く、第三位一五四%を占め壯丁の第五位八・八%に比して二倍の高率を占めてゐる。即ち表はれたこの結果は名譽に對する觀念の中等學生は壯丁よりはるかに強いことを表はしてゐると思ふ。

斯くの如く第一、第二の生活態度に就いての兩者の傾向の比較により中等學生と壯丁との間に於て金錢、名譽に關する觀念の強弱、從つて斯るものを對象とせる生活

に對する見解の相異の著しきことは、青年の生活環境による側面觀察として面白い現象である。

## 2. 學校種別による比較

中等學校生徒の生活態度の傾向の一般を窺つたのであるが、學校の種類によつて態度の相違を生ずるや否や、この點を觀察する爲に中學校、實業學校、女學校の三部に分類して、其の間の考へ方の相違を比較研究してみやう。

生活態度	學校種別				調査人員實數				百分比					
	中學校		實業學校		女子學校		計		中學校		實業學校		女子學校	
	男子	女子	男子	女子	男子	女子	計	男子	女子	男子	女子	男子	女子	
第一 一生懸命に働き儉約して金持になること	三三	三三	三三	三三	九五	五〇	二・六〇	三・九〇	三・三〇	一・七五	一・七五	一・七五	一・七五	
第二 まじめに勉強して名を擧げること	二四〇	二四五	四八五	三九五	一九・五〇	一五・一六	一七・〇〇	一七・〇〇	一七・〇〇	一三・八三	一三・八三	一三・八三	一三・八三	
第三 金や名譽を考へずに自分の趣味に合つた暮し方をすること	一五四	一三三	二八六	四六八	二〇・五〇	八・一七	一〇・〇〇	一〇・〇〇	一〇・〇〇	一六・三八	一六・三八	一六・三八	一六・三八	
第四 その日／＼をのんきにくよくよしないて暮すこと	五六	三三	二二八	二二八	四・五五	三・八四	四・一四	四・一四	四・一四	四・一三	四・一三	四・一三	四・一三	

(第五表)



計	第五	第六
	世の中の正しくないことを押しつけてどこまでも清く正しく暮らすこと	自分一身のことを考へずに公のため にすべてを捧げること
一、三三	四七	三三
一、六二六	六四	五〇
二、八四七	一、〇五一	八二
二、八五七	六四三	一、一八四
100.00	三五・五〇	二五・三五
100.00	三七・九九	三〇・九四
100.00	三六・九三	二八・五三
100.00	三三・四七	四一・四四

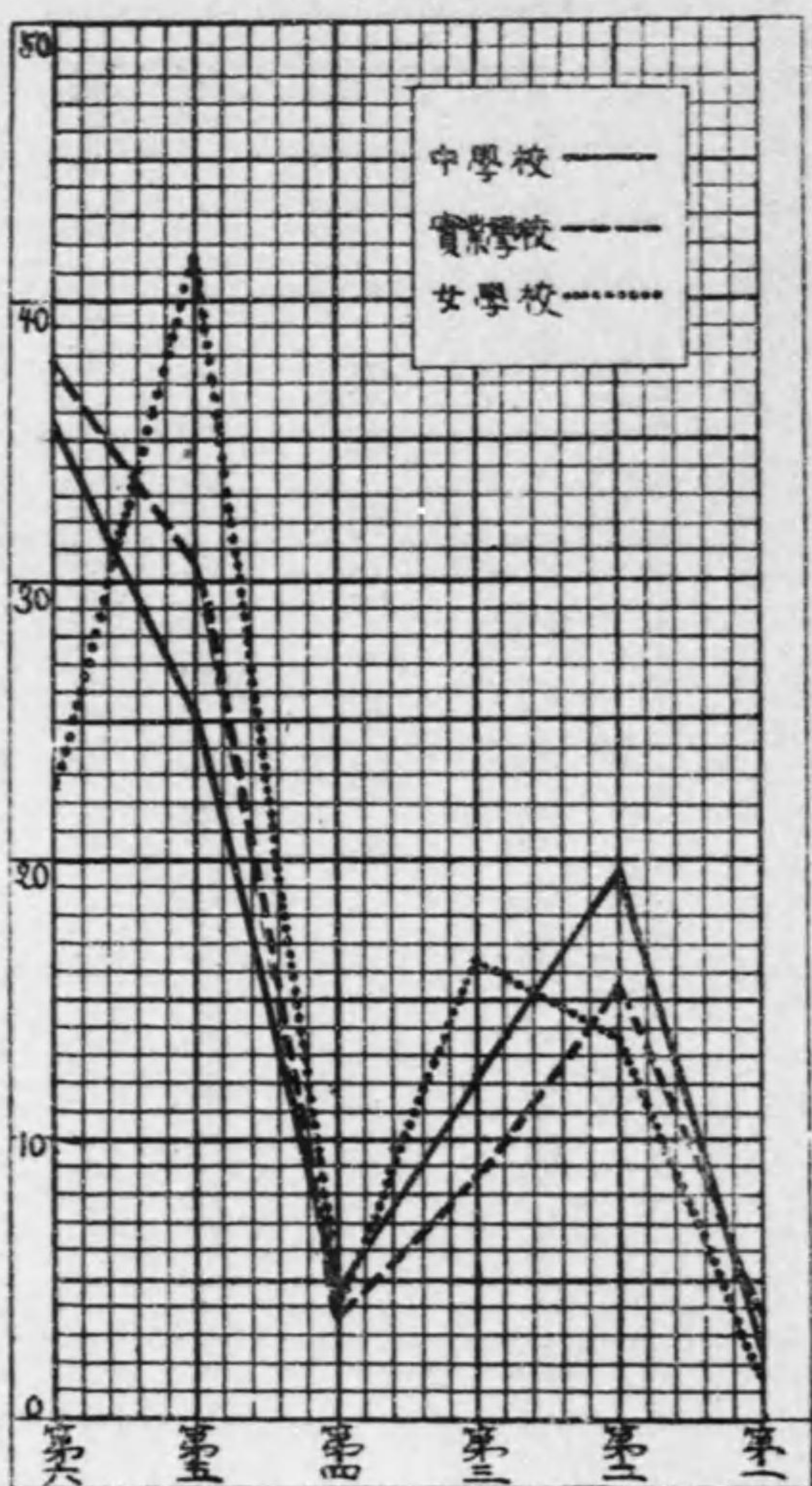
比較表に統計づけられた結果をみるに、大體に於て中學校と實業學校とは、ほぼ同じ傾向をもつてゐる。全般より見たる評價順位は兩者共(1)第六の生活態度、(2)第五の生活態度、(3)第二の生活態度、(4)第三の生活態度で、たゞ一つ(5)(6)に位するものゝ相違をきたしてゐる。即ち中學校は第四の生活態度を第五位におき、實業學校はこれを第六位に轉倒してゐるのである。

次に各生活態度に對する評價率の相異をみるに第五、第六、第一の生活態度には中學校は實業學校よりやゝ低く第四、第三、第二の生活態度にはやゝ高く價值づけてゐる。

更に男子中等學校と女學校と性別による比較を試みることにする。

評價順位よりすれば男學校が第六生活態度を第一位、第五の生活態度を第二位に

(生活態度)



(第 一)

せるに對し、女學生は之と全く反對に第五の生活態度を第一位に、第六の生活態度を第二位に、尙男學生が第二の生活態度を第三位に、第三の生活態度を第四位にしてゐるに反し、女學生は第三の生活態度を第三位に、第二の生活態度を第四位にしてゐる。

點が相違してゐる。第四、第一の生活態度に就いては兩者共に第五位、第六位の順序である。更に各生活態度に就いて率の上よりながむれば第三、第五の生活態度に於ては男學校より高く第五の生活態度に對しては特段に高く評價し第二、第六の生活態度に於ては、はるかに低く評價してゐる。

之を要約すれば、

1. 實業學校と中學校とは其の傾向に於てほぼ同一である。

2. 唯相異せる點は第一の「一生懸命に働き儉約して金持になる」生活態度に於て實業學校が順位の上でも評價率の上でもより高く評價されてゐる點である。
3. 男學校と女學校との間にも大體同じ様であるが
4. いちじるしく相異してゐる點は第五第六の生活態度に關する見解の相異で男學校が第六の「自分一身の事を考へずに公の爲にすべてを捧げる」生活態度を第一位に評價し、三六・九二%の者が選擇してゐるに對し、女學生は第二位、二二・四七%である。然るに第五の「世の中の正しくないことを押しつけてどこまでも清く正しく暮す」生活態度に於ては女學生は第一位四一・四四%、男學生は第二位二八・五二%を占め、兩者の間に著しき見解の相異を示してゐる。

### 3. 學年別による趨移

生活態度に對する選擇の傾向に就いて學年によつて生ずる特別の結果が表はれてゐるか、その趨移に就いて以下考究することにする。

(第七表)

生活態度	學年別					計
	I	II	III	IV	V	
第一 一生懸命に働き儉約して金持になる	三六	一八	一八	三六	三七	一三〇・〇〇
第二 まじめに勉強して名を擧げること	二六	三六	一六	二二	一四八	一〇〇・〇〇
第三 金や名譽を考へずに自分の趣味に合つた暮し方をすること	四七	九六	一七	二四	一九六	一〇〇・〇〇
第四 その日／＼のんきに／＼して暮すこと	三	九	四	九	六	一〇〇・〇〇
第五 世の中の正しくないことを押しつけてどこまでも清く正しく暮すこと	四六	四五	四二	三八	三三	一〇〇・〇〇
第六 自分一身の事を考へずに公のためすべてを捧げる	五五	三五	三七	二六	一七	一〇〇・〇〇
計	一三三	一四〇	一〇一	一〇〇	九七	一〇〇・〇〇
	I	II	III	IV	V	比
	二・七	一・五	一・五	三・四	三・六	
	一七・八	二六・四	一四・四	二二・三	一五・五	
	三・六	六・八	一・七	二・四	二・〇	
	〇・九	四・一	三・六	六・五	六・五	
	三三・三	三七・〇	三八・三	三〇・九	三五・七	
	四一・八	二九・八	二九・七	二四・八	一七・九	

六個の生活態度に對する評價傾向は全體より見て最下級生と最上級生には特色をもつてゐるが、二、三、四、五年生は大體同じ傾向をもつてゐる。即ち一年生は第六、第五、第二、第三、第一、第四の順序に、二、三、四、五年生は第五、第六、第三、第二、第四、第一の順序に、二年生は第二、第三、逆順、五年生は第五、第三、第六、第四、第一の順序に評價してゐる。いまだ中等學

校生活になれないものと正にその生活を終らんとする兩端に於て最も變化があるわけである。

次に各生活態度に對する選擇率の傾向に就いてみるに、第一の生活態度は三年生が最底で上級下級兩方面に増加してゐる第三第四の生活態度に對しては上級に進むに従つて増加第六の生活に就いては減少の傾向を示し第二第五の生活態度には別に學年的傾向が著しく表はれてゐない様である。

以上は一般的に見た傾向であるが更に詳細に中學校、實業學校、女學校各々に於ける學年による傾向をみることにする。

以下學校種別により學年別に分類集計しその結果の統計表をかゝけて各々の傾向に就いて其の概要を列記しやう。

中 學 校

學年	調査人員實數					百分比					
	I	II	III	IV	V	I	II	III	IV	V	
第一	五	一	七	一〇	九	三三	一・六七	〇・三六	二・七七	四・四六	五・〇六
計	三三	三	三	三	三	計	計	計	計	計	

(第八表)

第 二	第 三	第 四	第 五	第 六	計	一の生活態度				
						I	II	III	IV	V
五九	八	三	七	一五四	三〇〇	一九・六七	三・〇二	一八・九七	一七・四二	三〇・三三
五八	一六	四二	一〇三	九三	二七六	二・六七	五・八〇	一六・六〇	二四・五五	一八・三三
四八	四三	四一	五五	八七	二五三	二・二八	五・五三	六・二五	一〇・六七	四・五五
三九	五五	一四	三九	六七	二三四	一・〇〇	二・一八	五・五三	六・二五	一〇・六七
三六	三三	一九	四四	七〇	二七五	三・三六	七・三三	二・七四	一七・四二	二四・五五
二四〇	一五四	五六	三三	四七	一三三	二・二八	五・五三	六・二五	一〇・六七	四・五五
計	計	計	計	計	計	計	計	計	計	計

評價順位よりすれば六箇の生活態度の内最も下位ではあるが、評價率は大體に於て一年生一・六七%、二年生〇・三六%、三年生二・七七%、四年生四・四六%、五年生五・〇六%と上級に進むに従つて漸次増加の傾向を示してゐる。思ふに金に關心するところ、年齢と共に増加があるのは事實であらう。

第二の生活態度

一つの例外もなく第三位に評價し、一年生一九・六七%、二年生二一・〇一%と増加三年生に至り一八・九七%、四年生一七・四一%と減少し五年生に於て二〇・二二%に増加してゐる。しかし一般的に見て大體恒常的な價值を示してゐる様である。

三の生活態度

四年生の第二位を例外として他はすべて第四位に評價し、一年生二六七% 二年生五八〇%と漸次増加三年生一六六〇% 四年生二四・五五%と急激に上級に進むに従つて増加五年生に至つて一八・五三%にやゝ減少してゐる。これを見るに學年のすゝむと共に趣味生活に對するあこがれがより多くなるものと思はれる。

第四の生活態度

一年生第六位をのぞひては全部第五位に評價し評價率に於ては一年生一〇〇% 二年生二・一八% 三年生五・五三% 四年生六・二五% 五年生一〇・六七%と上級に進むに従つて増加の傾向がある。

第五の生活態度

一年三年生第二位、二年五年生第一位、四年生第三位に評價し、一年生二三・六六% 二年生三七・三三%と増率三年生二一・七四% 四年生一七・四一%と減少、五年生に至り二四・七二%と再び増加してゐる。

第六の生活態度

二年生五年生第二位他は第一位に評價し、一年生、二年生、三年生、四年生、五年生と漸次上級に進むに従つて減少する傾向を示してゐる。思ふに年齢の増加と共に主我

的な考へ方がより強くなつてくるのではあるまいか。

尙各々生活態度に對する評價順位に於て其の順位間の率差は下級生に於ては甚だしく上級に進むに従つて其の差極めて少く相接近してゐる。

實業學校

(第九表)

學年	調査人員實數					計	百分比					
	I	II	III	IV	V		I	II	III	IV	V	
第一	一六	六	五	一四	三三	六三	四・四三	一・六三	一・四四	四・五六	七・七〇	三九・〇
第二	五五	五四	四三	五二	二四五	二五〇	一七・五	一七・五	二二・九	一三・六八	一七・八三	一五・六
第三	七	一六	三六	三七	一三三	一九三	五・二	一三・七	一四・九八	九・四四	八・七	
第四	五	一〇	二二	一九	六	一三八	三・〇	三・一七	六・二九	五・九四	三・八四	
第五	一〇三	九八	一一	九五	五〇〇	二八・〇	三・三	三・九	三〇・六二	三三・三	三〇・九四	
第六	一七八	二九	二二	七	六二	四九・〇	四二・三	四〇・六四	二九・九七	二五・八七	三七・九	
計	三六三	三三	三四七	三〇七	二八六	一、六一六	一〇〇・〇〇	一〇〇・〇〇	一〇〇・〇〇	一〇〇・〇〇	一〇〇・〇〇	一〇〇・〇〇

第一の生活態度

評價順位は一年生第四位五年生第五位の他は第六位に評價され、一年生四・四五%

二年生一・九二% 三年生一・四四%と二三年と減少し四年生に於て再び一年生とほぼ同率の四・五六%に増率五年生に至りはるかに増加して七・七〇%を示してゐる。

第二の生活態度  
三四年生第四位、一・二五年生第三位に評價し、一年生最高率二・五二%次いで二年生一・二・三九% 三年生一・二・三九%と次第に減少四年生に至り一・三・六八% 五年生一・七・八三%と再び増加してゐる。

第三の生活態度  
一年生第五位二年五年生第四位三、四年生第三位に評價し、一年生一・九二% 二年生五・二一% 三年生一・三・三七% 四年生一・四・九八%と上級に進むに従つて増加五年生に至つて減少し九・四四%を示してゐる。

第四の生活態度  
一年五年生の第六位をのぞいては第五位に評價し、一年生一・三・八% 二年生三・二〇%と増加三年生は三・二七%に減少、四年生六・一九%と再び増加五年生に至り再び五・九四%に減じてゐて一定の學年的傾向を示してゐない様である。

第五の生活態度

一、二、三年生は第二位四、五年生は第一位に評價し、四年生三〇・六二%を例外として一年生二・八一〇% 二年生三・一三一% 三年生三・一九九% 五年生三・三二二%と上級に進むに従つて増加してゐる。

第六の生活態度  
第五の生活態度に對する評價順位と全く逆に一、二、三年生は第一位に四、五年生は第二位に評價し、一年生四・九〇% 二年生四・二一% 三年生四・〇六四% 四年生二・九・九七% 五年生二・五・八七%で上級に進むに従つて減少し一年生と五年生の差相半ばすることを示してゐる。

女 學 校

(第十表)

學年	調査人員實數					百分比				
	I	II	III	IV	計	I	II	III	IV	計
第一	二五	二二	六	三	五〇	二・二七	一・八八	一・〇〇	二・二七	一・二四
第二	一一三	一一四	五七	四二	六	一八・五二	一九・四九	九・五〇	七・七五	一三・六二
第三	三三	六四	九五	二四二	一三六	四・八六	二〇・九四	一五・八〇	二六・六五	二八・六六
第四	四	三三	一九	三六	二六	〇・六二	五・六四	三・一六	六・八二	五・三八
					二一八					四・三

計	六五	五八五	六〇	五九	四三	二、八五七	100.00	100.00	100.00	100.00	100.00	100.00	100.00	100.00
第五	二六五	一三四	二九五	一九五	一九五	一八四	四〇・二	四〇・〇	四九・八	六六・六	四〇・七	四一・四		
第六	三三	二九	二九	一〇四	五九	六三	三・五	三・〇	三・四	一九・六	三・三	三・四		
計	六五	五八五	六〇	五九	四三	二、八五七	100.00	100.00	100.00	100.00	100.00	100.00	100.00	100.00

第一の生活態度

評價順位より見れば六個の生活態度中一年生第五位を除いては最底位第六位に評價されてゐる。評價率の點に於ては一年生二・二七% 二年生一・八八% 三年生一・〇%と上級に進むに従ひ減少し四年生二・二七%と増加五年生に至り一・二四%と再び減少してゐる。

第二の生活態度

一、二年生は第三位に三、四、五の上級生は第四位に評價し、一年生一・八五% 二年生一・九四九%と増加三年生九・五〇% 四年生七・七五%とはるかに減少し五年生に至り一・二六二%とやゝ増加してゐる。

第三の生活態度

一、二年生第四位三年生第三位四、五、五年生第二位に評價し、一年生四・八六% 二年生一・〇九四% 三年生一・五八〇% 四年生二・六六五% 五年生二・八一六%と上級に進むに

従つて漸々増加五年生は一年生の約三倍に達してゐる。上級生程この趣味生活を重んじてゐることを示してゐる。

第四の生活態度

一年生の第六位をのぞいてはすべて第五位を占めてゐる。一年生〇・六一% 二年生五・六四% 三年生三・一六% 四年生六・八一% 五年生五・三八%と學年交互に増減波状を呈してゐて學年による一定の傾向を示してゐない様である。

第五の生活態度

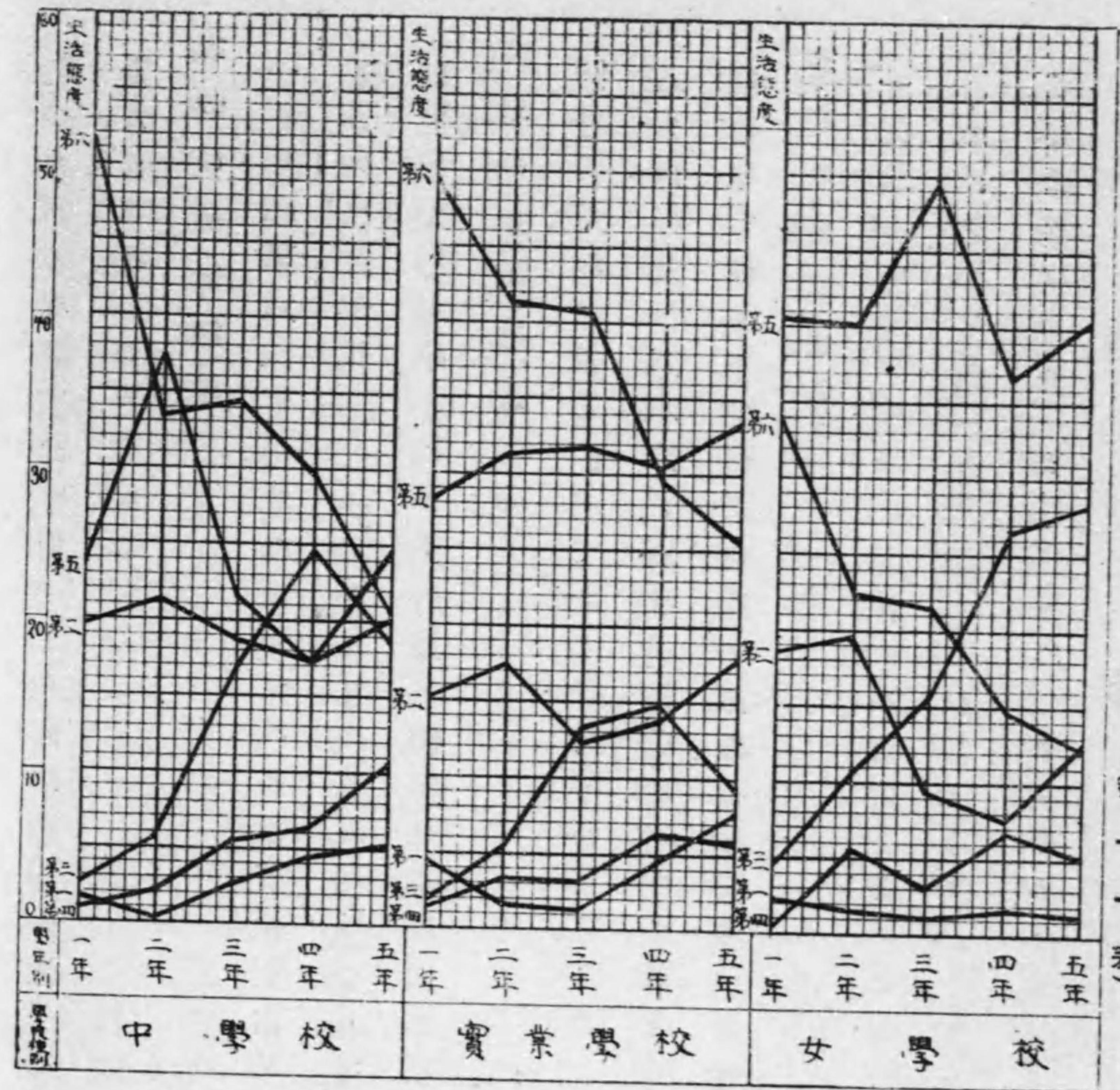
例外なく第一位を占めてゐる。一年生四〇・二一% 二年生四〇・〇〇% 三年生四九・〇八% 四年生三六・八六% 五年生四〇・三七%で學年交互に多少の増減はあるがほぼ同一率で而かもすべて可成の高率を示し特に三年生に於て最高である。

第六の生活態度

一、二、三年の下級生は第二位に四、五の上級生は第三位に評價し、一年生を最高率三・五四% 次いで二年生二・二〇五% 三年生二・一四六% 四年生一・九六六% 五年生一・二二二%と上級に進むに従つて減少の傾向を示してゐる。

要

約



(第十一表)

第一「一生命に働き儉約して金持になる」生活態度

1. 各學校一年生、實業學校五年生をのぞいて第六位に評價されてゐる。

2. 中學校、實業學校は最低率を示す二年生を例外として上級に進むに従つて増加の傾向あり、女學校は四年生を例外として上級に進むに従つて減少の傾向がある。

第二「まじめに勉強して名を擧げる」生活態度

1. 實業學校四年生、女學校三

四年生をのぞいて各學年共に第三位に評價してゐる。

2. 實業學校四年生を例外として各學校共に一年生より二年生へと増加三、四年生と減少し五年生に於て再び増率してゐる。其の間の率差は中學校最も緩にして實業學校之につき女學校に於ては最も甚だし。

第三「金や名譽を考へずに自分の趣味に合った事し方をする」生活態度。

1. 評價順位に於て上級の方高く中學校四年生、實業學校三年生、女學校四、五年生は第二位、實業學校四年生、女學校三年生は第三位、實業學校一年生を第五位他はすべて第四位である。

2. 上級に進むに従つて増率を示し中學校實業學校共に最上級にてやゝ減少するも女學校は最上級に於て増々高率を示し一年生の約六倍の増加である。

第四「その日その日のんきにくよくよしないで暮す」生活態度。

1. 最下級生が一番低く評價し第六位其他は中學校四年生第四位を例外として各學年共に第五位を占めてゐる。

2. 中學校は上級に進むに従つて漸次増加の傾向あるも實業學校女學校に於ては一年生を最低として二年生漸増加三年生にて減少四年生再び増加五年生に於

て再び減少し、斯く學年交互に波状をふがきながら漸次上級に進むに従つて増加せる傾向あり。

第五世の中の正しくないことを押しつけてどこまでも清く正しく暮す「生活態度

1. 實業學校一、二、三年生、中學校一年、三年生は第二位、中學校四年生第三位を例外と

して各學年共第一位である。

2. 中學校に於ては二年生が極端に高率を示し、三年生、四年生と下落し、五年生に至り再び増率し其の差甚だしきに反し、實業學校は四年生を例外として漸次上級に進むに従つて増率する傾向あり。女學校に於ては二年生が一寸と減率を示すが、三年生に於て極端に増率再び四年生に至り極端に減少し、五年生に至り再び増加してゐる。三年生より四年生へと下落、五年生に至り再び増加する傾向は共通である。

第六「自分一身のことを考へず公のためにすべてを捧げる」生活態度

1. 中學校一年、三年、四年生、實業學校下級三年生は第二位、女學校の四年生三位、五年生四位にて他は第二位を占む。

2. 中學校三年生を例外として大體上級に進むに従つてその率減少する傾向あり。

## 五、調査の整理

### (第二) 職業選擇に關する態度

一體生物が無生物より存在以上に區別される、點は生きてゐることであると同時に、同じ生物の内でも人間が特に區別される、所以のものは他の生物よりも生存以上の價值をもつてゐることである。之を言ひかへるならば價值生活をしてゐるからである。人生の意義と目的の爲に終始する處に價值生活がある。人間から價值生活をうばひさる時人間も一個の動物に過ぎなくなる。さて人間が價值生活をする爲には其の手段として職業と言ふ舞臺をもつてゐる。この舞臺の上に各々の生活態度をテーマとして人生と云ふストーリーが展開される。人の生活態度には千差萬別であるが前篇によつて中等學生の生活態度の傾向を知り得たわけであるが、これを如何なる職業と云ふ舞臺の上に展開しやうと望んでゐるか、彼等の將來選ぶ理想的職業とその傾向を窺はんとするものである。

### 1. 希望職業

#### A. 中等學校



1. 調査人員一二三一名中九六九名、七八七四%のものが将来の職業を記入し、他の二六二名、二一・二六%のものが全々解答してゐない。之を學年別により見るに一年生は三〇〇名中二三六名、七八・六七%のものが二年生は二七六名中二〇九名、七五・七二%のもの、三年生は二五三名中二〇八名、八二・六一%のもの、四年生は二二四名中一八〇名、八〇・三五%のもの、五年生は一七三名中一三六名、七八・六七%のものが解答し、一年生六四名、二一・三三%、二年生六七名、二四・二八%、三年生四五名、一七・三九%、四年生一九・六四%、五年生二七名、二一・三三%のものが無解答である。各學年を通じて約二割のものが未だ定つた考へをもつてゐない様である。

2.

中 學 校

(第十二表)

職業名	學年別					計	百分比					計
	I	II	III	IV	V		I	II	III	IV	V	
軍人	1	2	3	4	5	15	0.03	0.04	0.06	0.08	0.10	0.13
充	1	2	3	4	5	15	0.03	0.04	0.06	0.08	0.10	0.13
計	174	293	196	317	174	1154	1.96	3.17	2.10	3.33	2.10	11.66

職業名	I	II	III	IV	V	計	I	II	III	IV	V	計
醫師	2	3	4	5	6	20	0.03	0.04	0.06	0.08	0.10	0.13
商	1	2	3	4	5	15	0.03	0.04	0.06	0.08	0.10	0.13
教育家	1	2	3	4	5	15	0.03	0.04	0.06	0.08	0.10	0.13
工	1	2	3	4	5	15	0.03	0.04	0.06	0.08	0.10	0.13
學者	1	2	3	4	5	15	0.03	0.04	0.06	0.08	0.10	0.13
政治家	1	2	3	4	5	15	0.03	0.04	0.06	0.08	0.10	0.13
會社銀行員	1	2	3	4	5	15	0.03	0.04	0.06	0.08	0.10	0.13
實業家	1	2	3	4	5	15	0.03	0.04	0.06	0.08	0.10	0.13
官吏	1	2	3	4	5	15	0.03	0.04	0.06	0.08	0.10	0.13
技師	1	2	3	4	5	15	0.03	0.04	0.06	0.08	0.10	0.13
法律家	1	2	3	4	5	15	0.03	0.04	0.06	0.08	0.10	0.13
藥劑師	1	2	3	4	5	15	0.03	0.04	0.06	0.08	0.10	0.13
海員	1	2	3	4	5	15	0.03	0.04	0.06	0.08	0.10	0.13
宗教家	1	2	3	4	5	15	0.03	0.04	0.06	0.08	0.10	0.13
月給取	1	2	3	4	5	15	0.03	0.04	0.06	0.08	0.10	0.13
行政官	1	2	3	4	5	15	0.03	0.04	0.06	0.08	0.10	0.13
裁判官	1	2	3	4	5	15	0.03	0.04	0.06	0.08	0.10	0.13
飛行家	1	2	3	4	5	15	0.03	0.04	0.06	0.08	0.10	0.13

計	殖民地開拓	基園指南	労働者	事業家	運動家	藝術家	新聞記者	美術家	音楽家	画家	警察官	外交官	文藝家	農業者	技師	發明家
三三六	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	二	一	三	一	一
二〇九	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一
二〇八	一	一	一	一	一	一	一	二	一	一	一	一	三	三	二	三
一〇六	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	三	一	二	一	一	一
一三六	一	一	一	一	一	二	一	一	一	一	一	一	一	一	二	一
九六九	一	一	一	一	一	三	三	三	三	三	三	四	五	六	六	六
100.00	一	一	一	一	一	〇.四三	〇.四三	一	一	〇.四三	〇.四三	〇.八五	一	〇.八五	一	一
100.00	一	一	一	一	一	一	一	〇.四八	〇.四八	〇.四八	〇.四八	〇.四八	一	〇.四八	〇.四八	〇.四八
100.00	一	一	一	〇.四八	一	一	〇.九六	一	一	〇.四八	一	一	一.四四	一.四四	〇.九六	一.四四
100.00	〇.五六	一	一	一	一	〇.五六	〇.五六	一	一	一.二二	一	一	一.二二	〇.五六	〇.五六	〇.五六
100.00	一	〇.七四	〇.七四	〇.七四	一.四七	一	一	〇.七四	〇.七四	〇.七四	〇.七四	〇.七四	一	一.四七	一.四七	〇.七四
100.00	〇.一〇	〇.一〇	〇.一〇	〇.一〇	〇.一〇	一.三三	一.三三	〇.三三	〇.三三	〇.三三	〇.三三	〇.三三	〇.三三	〇.三三	〇.三三	〇.三三

軍人が最高を占め一七四名一七.九六%で低學年程其の數が多い。次には醫師一六〇名一六.五〇%で、全學年を通じてほぼ一様に高率である。次いで商業に従事せんとするもの一〇四名一〇.八四%、教育家九六名九.九一%であるが、商業の比較的多いのは特に注意すべきであらう。今詳しく商業と稱する内容を營業別によつて挙げれば左の如きものである。

商業(一七)、藥局(二三)、貿易商(一〇)、土木建築業(九)、機械商(七)、鑄造業(三)、海運業、理髮店、印刷業、材木商、米穀商、自動車業、電氣器具商、書籍店(二)、食料品店、スキー具商、製紙業、蒲鉾商、ワイシャツ製造業、靴クリーム商、製材業、茶商、海産物商、金細工商、煙草店、洋服店、陶器商、船具商、鼻緒商、廻漕業、質屋、ゴム商、製油業、建築材料商、皮革商、コークス商、古着商、出版業、天ぷら屋、寫眞機械製造業、造船業、魚屋、鐵材商(二)計一〇四

次いで工業五八名五.九八%、學者五一名五.二八%、政治家四八名四.九五%、會社銀行員四五名四.六四%、實業家三四名三.六八%、官吏二七名二.七九%、技師二四名二.四八%が主なるものである。

B. 實業學校

1.

調査人員一六一六名中一四四一名八九一七%のものが將來の職業を記入し一七  
 五名一〇・八三%のものが全く解答してゐない。之を學年別によりみるに一年生三六  
 三名中三四七名九二・五三%のものが二年生三一三名中二七〇名八三・〇六%のもの三  
 年生三四七名中三一二名八九六三%のものが四年生三〇七名中二七九名九〇・八七%の  
 もの五年生二八六名中二三三名八一四七%のものが解答し、一年生一六名七・四七%の  
 二年生四三名一六・九四%三年生三五名一〇・三七%四年生二八名九・二三%五年生五  
 三名一八・五三%のものが無解答である。一年生が最も多く五年生が一番少く解答し  
 てゐることは一面に於ては一年生は忠實に書き五年生になるとやゝ粗雑であると  
 も考へられるが、一年生時代には色々の空想もあるであらうがも早や五年生にもな  
 れば仲々選擇に際し種々の困難があり未だ定まらざるものも多々あるであらうと  
 考へられる。

全體としては中學校より其の率の點に於て良く約一割の無解答者である。

2.

今、解答者の希望職業をみるにこれも抽象的なるもの、具體的なるもの各人種々で  
 あるが中學校に比してはるかに具體的に其の方面に亘つてゐる、今集計すれば左の

如くである。

實業學校

(第十三表)

職業	解答者實數					計	百分比				
	I	II	III	IV	V		I	II	III	IV	V
商業	二四七	一三三	一七三	一五四	二八	八四	七二・七	四五・五五	五五・〇八	五五・〇九	五六・四九
會社銀行員	三	三五	三	三	二	一六	一〇・三七	二二・九六	二・五七	一〇・三〇	二・三六
實業家	三	三六	元	二七	三	一四	三・四六	一三・三三	一三・五四	九・六六	一三・三〇
工業	二	二六	二	二	一九	六	〇・五八	九・六三	〇・七二	八・一五	四・二二
官吏	八	八	五	九	五	三三	二・三	二・九六	一・六二	三・三	二・一五
軍人	二〇	四	三	四	二	三三	五・七六	一・四八	〇・九六	一・四三	二・二九
月給取	一	一	八	二	四	二二	一・七六	一・四八	二・五三	三・九四	一・七三
政治家	三	四	五	四	四	二〇	〇・六六	一・四八	一・六二	一・四三	一・三九
職工	一	一〇	一	一	九	二〇	一・四四	三・七〇	〇・三三	一	三・八六
教育家	五	三	一	七	二	一八	一・四四	一・二二	〇・三三	二・五	〇・八六
法律家	二	三	一	九	二	一七	〇・五八	一・二二	〇・三三	三・三	〇・八六
圖案家	四	一	九	一	一	一三	一・一五	一	二・八九	一	〇・九
計	二四七	一三三	一七三	一五四	二八	八四	七二・七	四五・五五	五五・〇八	五五・〇九	五六・四九

新聞記者	醫師	文藝家	學者	飛行家	彫刻家	藝術家	農業	外交官	園藝家	畫家	發明家	警察官	宗教家	勞働者	海員	音樂家	行政官
1	1	1	1	1	2	2	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
4	1	2	2	2	1	1	1	1	1	1	1	1	1	2	1	1	1
1	1	1	2	2	1	1	1	1	4	1	1	1	1	1	1	1	1
5	3	3	1	1	1	1	2	1	1	1	1	1	3	1	1	1	1
1	3	3	1	1	1	1	1	2	1	1	1	1	1	1	1	2	1
2	8	6	5	5	4	4	4	4	4	3	3	3	3	3	3	2	1
1	0.2元	0.2元	0.2元	0.2元	0.5元	0.5元	0.5元	0.5元	0.5元	0.5元	0.5元	0.5元	0.5元	0.5元	0.5元	0.5元	0.5元
1	1.4元	1.4元	1.4元	1.4元	0.7元	0.7元	0.7元	0.7元	0.7元	0.7元	0.7元	0.7元	0.7元	0.7元	0.7元	0.7元	0.7元
0.3元	0.3元	0.3元	0.3元	0.3元	0.3元	0.3元	0.3元	0.3元	1元	0.3元	0.3元	0.3元	0.3元	0.3元	0.3元	0.3元	0.3元
1.9元	1.9元	1.9元	1.9元	1.9元	0.6元	0.6元	0.6元	0.6元	0.6元	0.6元	0.6元	0.6元	0.6元	0.6元	0.6元	0.6元	0.6元
0.3元	0.3元	1元	0.3元	0.3元	0.3元	0.3元	0.3元	0.3元	0.6元	0.3元	0.3元	0.3元	0.3元	0.3元	0.3元	0.3元	0.3元
0.7元	0.5元	0.5元	0.4元	0.3元	0.3元	0.3元	0.3元	0.3元	0.3元	0.3元	0.3元	0.3元	0.3元	0.3元	0.3元	0.3元	0.3元

最高位を占めるものは言ふまでもなくやはり商業に従事せんとするもので、各學年を通じて大多數を占め解答人員一四四一名中八一四名五六・四九%約六割に達してゐる。商業に従事するものとしてまとめられたものは商店、營利業、製造業其他各種のもので之を詳細に記すれば次の様なものである。

事業家	探検家	尺八指南	仲仕	計
1	1	1	1	37
1	1	1	1	70
1	1	1	1	33
1	1	1	1	29
1	1	1	1	33
1	1	1	1	144
1	1	1	1	100.00
0.7元	0.7元	0.7元	0.7元	100.00
1	0.3元	0.3元	0.3元	100.00
1	0.3元	0.3元	0.3元	100.00
1	0.3元	0.3元	0.3元	100.00
1	0.3元	0.3元	0.3元	100.00
1	0.3元	0.3元	0.3元	100.00
1	0.3元	0.3元	0.3元	100.00
1	0.3元	0.3元	0.3元	100.00

商業(三五七) 建築業、貿易商(七八) 家具商(三四) 米穀商(二七) 呉服商(一四) 酒醬油商(一一) 書籍店、牛乳搾取業、(八) 材木商(七) 印刷業、薪炭商、藥種商、菓子商、洋服店、機械製造業(六) 紙商、製皮商、メリヤス商、金物商、綿布商、時計商、鐵工業、鑄造業(五) 莫大小製造業、裝飾業、塗裝業、金融業、電氣器具商、樂器店(四) 海產物商、海運業、綿業、醸造業、鐵油商、洋反物商(三) 新聞舖、靴商、化粧品店、妻楊子はし商、組紐業、婦人子供服店、毛織物商、履物商、鐵力販賣業、寫真商、酸素商、砂糖商、出版業、古物商、紡績業、日用品店、食料品店、硝子商(二) モートル修繕販賣、地金商、石鹼商、建具商、雞肉商、看板商、製毛業、乾物商、セメント販賣、罐詰商、玩具商、計量器販賣、小間物商、銅商、手帳製造、鐵商、絹織物業、青果商、ロッソク商、運送業、洗濯機械製造業、外國爲替ブローカー、自動車修繕業、貝玉製造業、綿取引、帽

子店、羅紗洋傘卸商、硝子製造業、漆器商、毛布商、製本業、飲食店、問屋、貨船業、陶器商、寫真機商、土地行業、毛物卸販賣、ゴム靴製造業、農具販賣商、毛糸商、精米業、セルロイド商、ゴム商、理髮業、鑛山業、證券買賣業、昆布商(一)

之等商店或は營利業をなさんとするものと第三位の實業家の一四五名一〇〇六%のものを合すると實業に従事せんとするものが約七割に達してゐるわけである。會社銀行員一六四名、一・三八%次いで官吏軍人月給取政治家職工教育家法律家圖案家新聞記者醫師文藝家學者飛行家彫刻家藝術家農業外交官園藝家畫家發明家警察官宗教家勞働者海員音樂家行政官事業家探檢家尺八指南仲仕の順序である。中でも軍人三三名二・二九%政治家二〇名一・三九%教育家一八名一・二五%法律家一七名一・二五%新聞記者一名〇・七六%醫師八名〇・五五%文藝家六名〇・四一%飛行家四名〇・二八%外交官四名〇・二八%警察官三名〇・二一%宗教家三名〇・二一%音樂家二名〇・一四%行政官事業家二名〇・〇七%等全く異つ色彩をもつてゐるものゝあることは一應注目に値するものであらう。

### C. 女 學 校

近來女子が職業に従事する傾向の著しくなつたことは言ふまでもない。女學校へ

入學する動機に於ても往時とは幾分その趣を殊にしてゐる。尙又女學校教育なるものそれ自身に於ても多分に職業的知識の養成を加味されてゐる状態である。女學生が如何なる職業を將來に希望するか又その割合に就いては興味ある問題であらう。調査人員二八五七名中八六四名三〇・二七%のものが希望職業を明記してゐる。これを學年別に詳調すれば一年生六五九名中二二八名三四・七三%二年生五八五名中一七四名二九・七四%三年生六〇一名中一六五名二五六・二%四年生五二九名中一五五名二九・三二%五年生四八三名中一四二名二九・四九%の割合である。他の残り一九九三名の中一七四名九・一九%のものは目下考慮中一六三名八・六二%のものは家庭の手傳或は良き主婦母となる等全く家庭人となると解答し、一五五七名八二・一九%のものが無解答である。考慮中のものをのぞいても一七二〇名六〇・二三%のものが全く就職の意志なきものと見るべきであらう。今明記せる職業を學年別に集計すれば次の如くである。

### 女 學 校

(第十四表)

職業別	學年別					計	百分比
	I	II	III	IV	V		
解答者實數							
計	I	II	III	IV	V	計	

計	工業	辯護士	通譯	ダンサー	舞踊家	聲樂家	労働者	飛行家	社会事業	美術家	詩歌人	女中	産婆	美容師	宗教家	運動家	農業
三八	—	—	—	—	—	—	—	—	二	—	—	—	二	—	—	三	二
一七四	—	—	—	—	—	—	—	—	二	二	—	—	—	—	—	—	—
一六五	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	二	二	—	—	二	二	—
一五五	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	二	二	—	—	—
一四三	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
八六四	—	—	—	二	二	二	二	三	三	四	四	五	五	五	五	五	五
100.00	0.04	0.04	0.04	0.04	0.04	—	—	0.08	0.04	—	0.04	0.08	0.04	—	1.33	0.88	0.57
100.00	—	—	0.57	0.57	—	—	—	—	1.15	1.15	—	—	0.57	—	—	—	—
100.00	—	—	—	—	—	0.61	0.61	—	—	1.11	1.11	—	0.61	—	1.11	1.11	—
100.00	—	—	—	—	—	—	—	0.65	—	—	—	—	—	—	—	—	—
100.00	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
100.00	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
100.00	0.11	0.11	0.11	0.11	0.11	0.11	0.11	0.11	0.11	0.11	0.11	0.11	0.11	0.11	0.11	0.11	0.11

政治家	藝術家	タイピスト	小説家	學者	畫家	花茶書師	音樂家	看護婦	店員	會社銀行員	藥劑師	事務員	醫師	裁縫師	職業婦人	商業	教育家
三	一	—	四	八	二	—	七	四	七	二	五	五	一三	七	五	三〇	一〇九
—	二	四	三	二	三	三	三	六	七	五	八	一三	一三	六	一三	七	六七
三	一	三	—	—	五	五	六	四	五	一四	六	五	九	七	二	二	五五
—	二	二	—	—	三	三	三	三	二	三	八	九	一〇	一〇	一四	二〇	五五
—	三	—	二	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	三八
七	九	一〇	一〇	一〇	一三	一六	二〇	二〇	二五	二五	三三	四六	四九	四九	五五	九〇	三四
一三三	〇四四	—	一七五	三・五二	〇八八	—	三〇七	一七五	三〇七	〇八八	二・一九	二・一九	五・七〇	三・〇七	二・一九	一三・一五	四七・〇〇
—	一・二五	二・三〇	一七三	一・一五	一七二	一七三	一七二	三・四五	四・〇二	二・九〇	四・六〇	七・四七	七・四七	三・四五	七・四七	四・〇二	三八・五三
—	〇・六二	一・八一	〇・六一	—	三・〇三	三・〇三	三・六四	二・四二	三・〇三	八・四八	三・六四	三・〇三	五・四七	四・二四	六・六七	七・二七	三三・三三
—	一・二九	一・二九	—	—	一・九四	一・九四	一・九四	一・九四	一・二九	一・九四	五・一六	五・八〇	六・四五	六・四五	九・〇二	一二・九〇	三五・四八
〇・七〇	二・二二	〇・七〇	一・四二	〇・七〇	—	三・五二	〇・七〇	二・二二	二・八二	〇・七〇	四・二三	九・八六	二・八二	一三・三八	八・四五	一四・七八	二六・八〇
〇・八一	一・〇四	一・〇六	一・二六	一・二七	一・五二	一・八五	二・三二	二・三二	二・八九	二・八九	三・八二	五・三三	五・六七	五・六七	六・三七	一〇・四三	三七・五

各學年を通じて最も多いのは教育家で三二四名三七・五〇%もある。幼稚園保母、小學校教員が最も多く次いで中等學校教師。小數ではあるが専門學校教授を選んでもるものもある。

次は商業で九〇名一〇・四二%である。これは自らが希望する職業と云ふ意味でなく相續人なるが故に當然家の現在の職業を止むなく續がねばならぬものが大部分の様である。然しこの内でもかゝる境遇でなくして婦人小供服店を開き洋裁で獨立した生活をしやうとするもの、書籍店、手藝品店、花屋等女にふさわしい職業に就かんとするものの中には菓子が好きだから菓子屋になる等極めて幼稚なものもある。一體どんな商賣をせんとしてゐるか次に列記することにする。

婦人子供洋服店(三二)、藥局、手藝品店(五)、呉服店(四)、花屋、書籍店(三)、貿易商、帽子製造、雜貨店、酒屋(二)、印刷業、天德靈泉營業、債券賣買商、製紙原料店、時計商、醫料酸素店、寫眞屋、化學用原料品店、刀劍商、薪炭商、瓦斯器具商、農産種子商、醬油店、湯屋、玩具店、金物商、花あられ製造、質屋、鐵鋼接合劑商、樂器店、澱粉商、絹織物輸出商、レコード商、材木商、化粧品店、刺繍店(一)

次に裁縫師匠、醫師各四九名五六七%で前者は女子の職業としては當然のことであらうし、醫師を志す女性の多くなつたことはこれによつても裏書されてゐるわけ

である。

これに次いで事務員四六名五・三二%藥劑師三三名三・八二%會社員銀行員、二五名二・八九%店員二五名二・八九%看護婦、音樂家二〇名二・三一%である。

尙其他少數ではあるが華、茶、書、謠曲、琴師匠、畫家、學者、小説家、タイピスト、藝術家、政治家、農業、運動家、宗教家、美容師、產婆、女中、詩歌人、美術家、事業家、飛行家、聲樂家、舞踊家等頗る多方面にわたつてゐる。

### 3 選擇の理由

職業を選擇するに當つて彼等は何故それを選択せ、しか其の理由に就いてみるに多種多様ではあるが凡そ次の様な數項に盡きる様である。

- 1 何の理由もなく唯漫然と選びしもの
- 2 自分の境遇、性質、技倆に適當してゐる
- 3 經濟的安定を得られると思ふ
- 4 公益を計るために
- 5 その仕事に多分の趣味をもつてゐる
- 6 呑氣に暮したい爲に

- 7 何さなく好きでたまらないから
- 8 両親の意志によりず、めらるゝまゝに
- 9 名を擧げるために
- 10 社會の淨化を計る
- 11 時代に適合せる職業と思ふが故に
- 12 家計の補助に當てる爲に
- 13 獨立生活を營むために
- 14 後日不時の場合の用意として
- 15 國家に貢獻し國威を發揮する爲
- 16 研究の爲
- 17 正しい生活をしたい爲に
- 18 規則生活をしたい爲に
- 19 修養の爲に
- 20 親の現在の職業を相續する爲に

男學生と女學生とは大體に於て職業につく目的がちがふ。一つは半永久的であり一つは一時的であると言ふ處に其の理由も自ら異なりてゐる。男學生は概してその理由が切實である。中でも實業學校生徒は極めて具體的に職業に對する意見をもつ

てゐることが窺はれる。女學生はこれに反して極めて幼稚な考へ方をしてゐるものが多い。(1)何の理由もなく唯漫然と選びしもの (7)何となく好きでたまらないからと云ふのが一番多い。女子特有の理由としては (12)家計の補助 (13)獨立生活を營むため (14)後日不時の場合の用意 (16)研究の爲 (17)正しい生活をしたい爲 (18)規則生活をしたい爲 (19)修養の爲に等でこれ等は男學生のには殆ど見當らなかつたやうである。

### 要 約

1. 中學校實業學校の生徒は或少數のものを除いてはその殆どが將來従事すべき職業に對する希望をもつてゐるが、これに反し女學校生徒はその殆どが卒業後家庭にあり、將來結婚生活に入る準備をなすもので、約四割のものが卒業後職業婦人として活動しやうと志してゐる。而し女子としては往年に比し約四割は眞に多とすべく近來の社會世相のいちじるしき反影とみるべきである。
2. 然し或少數のものをのぞひては殆ど家計補助の爲或は修養研究の爲後日不時の場合に備へる爲一定の職を習つてよく程度のもので、極めて一時的のものであることは言ふまでもない。



之に反し男學生は全く異つてゐる。何の理由もなく唯漫然と選んだり、何となく好きだからと言ふ如き極めて其の選擇理由の薄弱なものもないでもないが、概して健全な理由をもつてゐる。特に實業學校生徒に至つては最も實際的である。

3. 希望職業名は中學校實業學校女學校共に各學年を通じて教育家、實業家、政治家、藝術家あらゆる方面を網羅してゐるが、其の内でも其の大部分を占めてゐるものは中學校の(1)軍人(2)醫師(3)實業家(4)教育家、實業學校の(1)實業家(2)官吏(3)軍人、女學校の(1)教育家(2)實業家(3)醫師(4)裁縫師匠(5)事務員(6)藥劑師である。

昭和九年一月十八日印刷  
昭和九年一月廿七日發行

大阪府學務課分室

著作兼 發行者 大阪府中等學校校外教員聯盟

代表者 島 田 牛 稚

印刷者 大阪市此花區上福島南二丁目一六一 中 島 政 藏

印刷所 大阪市此花區上福島南二丁目一六一 中 島 印刷工場

